

心に残る文化財子ども塾 出雲市立四絡小学校

1. 活動の概要

6月27日（金）、出雲市立四絡小学校で、6年生3クラス計94人を対象として『心に残る文化財子ども塾』を開催しました。

はじめに四絡小学校周辺の遺跡を紹介しました。学校周辺には、たくさんの遺跡があり、身近に遺跡があることを感じてもらいました。次に遺跡から出土した奈良時代の土器（須恵器）に触れてもらいました。「思ったより重い」、「軽い」、「厚さが薄く、壊れそう」など感想を話しながら触れていました。

次に、奈良時代や大仏が作られるに至った背景や当時の作り方について説明し、大仏パネルを組み立てました。子どもたちは、協力してパネルを並べ、早い組では10分あまり、他のクラスでも15分かからず完成しました。完成した大仏パネルの上を歩いたり、大仏の手の大きさが子ども何人分かを調べたり、実物大の大仏の大きさを実感していました。そのあと、大仏パネルの上で思い思いのポーズをとって記念撮影をしました。暑い日でしたが、クラス全員が団結して大仏を完成させて、その大きさを実感した一日となりました。

2. 活動の様子



3. 活動を終えて

1) 児童の皆さんから

- ・大仏パネルを組み立てたことが心に残り、大きさを実感できた
- ・大仏が思っていたより大きかったことに驚いた
- ・大仏が大きかったけど、みんなと協力してできた
- ・本物の土器を見たり触ったりしたことで、大きさや重さなど細かいところまで理解できた
- ・島根県からも遺跡が数多く発見されていることにびっくりした
- ・島根県内からも奈良時代のお金が出土していることに驚いた
- ・四絡地区にも遺跡がたくさんあることがわかった
- ・出雲国と書かれた木簡を見てわくわくした。もっと奈良時代のことを調べたくなった

2) 担任の先生から

- ・大仏の大きさを実感できたため、時代や大仏に関心を高めることができたので、やって良かったと思いました。
- ・プリントだけでなくスライド資料があると子どもたちの理解度が高まると感じました。また、地元の遺跡についてもっと詳しく知りたいです。

3) 古代出雲歴史博物館から

- ・土器の触った感想や質問など積極的な発言が多く、充実した時間でした。
- ・台座の部分と頭の部分に分かれて作成したり、声をかけあいながらパネルを探したりするなど工夫していたことが印象に残りました。
- ・片付けも協力してもらい、スムーズに行うことができました。
- ・実物の奈良の大仏を見たことがない子どもも多く、実物を見たときに今回の体験を思い出してくれたらうれしいです。